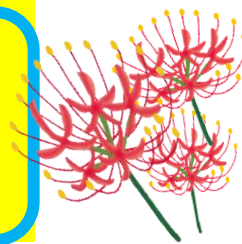


久斗山地区公民館だより



令和8年
10月号

9月25日発行

久斗山地区公民館

【ご挨拶】 最近ネットの世界だけでなく、身近なところでAI(人工知能Artificial Intelligenceの略)が頻りに登場するようになりました。AIは、人が長い時間をかけて学習し、知識に基づいて計画したり推論し、さらに応用するということが短時間で、場合によっては一瞬で行ってくれるのでとても便利です。生物の名前や言葉の意味を調べるのに、以前は図鑑や辞書の頁をめくっていましたが、今は画像や文言を入力するだけで、AIが丁寧に教えてくれます。でも、それが間違っていることがあるので、全てを信用するのは危険です。AIも今はまだ進化の途中ですが、将来は人類を滅亡させる存在になるとも言われています。AIに負けないためにも、自らの体験や本物を見抜く力が大切です。

【久斗川の清き流れに】 今年の夏も気温は記録的に高く雨もほとんど降らず、集落内を流れる川の水位はかなり減少しました。長く日照りが続いて久斗川の源流の山にはブナ林や深い森林があるので、水が涸れることはありませんでしたが、川底には泥が溜り、澄んだ清流がちょっと人が入っただけで濁り、田んぼに棲んでいるような昆虫が見つかりました。9月に入ると、不安定な天候が続き、時にはバケツをひっくり返すほどの豪雨が降ると川は一気に増水しました。やがて雨が止み、水が引くと川底は洗われ、清流は蘇りました。日頃から山や川の恵みを受け、そして川の畔に住む者として、天や自然のご機嫌をないがしろにはいけないことを痛感しています。



久斗山の村の上、"山博(やまたい)"の堰堤 (令和8年9月10日)

【秋の夜はとっても面白い！】

お盆を過ぎると、虫の声で夜の野外がやたらとうるさくなってきます。9月の自然教室は12日、土曜の夜「夜の鳴く虫と夜行性生き物観察会」を開催しました。保護者も含め、12人の参加者がありました。午後6時に開会、暗くなる前に鳴く虫や生き物のことや夜間観察の注意を話して、7時前 終わりがけにコクワガタを捕まえたにさっそく野外に出ました。すでにアツムシがうるさく鳴いていますが、姿はなかなか見えません。それでも目のいい子ども達はさっそく「カキ」の仲間や「カキ」、ササキ、イナゴなどを見つけて大騒ぎ。ちょっと静かに！と注意しながら、真っ暗な村外れまで行って、この日は天気が良く星空を見ながら引き返しました。途中で長靴にヤミルが入り込み、血を吸われた可哀想な子もいましたが、色々と生き物たちを観察できて、秋の夜を楽しみました。



夜のカマキリの目は黒い



オカメコオロギ



アオマツムシ



ツノアオカメムシ

モリチャバネゴキブリ

【秋の山は茸の世界】

宮谷の道路の斜面で真っ赤な茸が出ているのが目に止まりました。タマゴタケという茸で、派手な色ですが食用になります。茸は気温が低く、湿度と栄養分が豊富になる秋に多く出てきます。冬になる前に胞子を飛ばすため、日本だけで4,000種類以上あると言われており、地表や落葉、朽木などから顔を出しています。食用茸は美味しいですが、有毒の茸も多く、きちんと見分けて食べないと酷い目に合います。



タマゴタケ



アカチシオタケ

【秋は鹿の繁殖期】

秋が深まると野山で牝を呼ぶ牡シカの鳴き声がよく聞かれるようになります。秋はシカの繁殖期で、牡は活動的になります。9月12日と13日に続けて罠にかかった牡は立派な角をした成獣で、堂々としていました。この時期は気性が荒く、攻撃的になるので油断が出来ません。



【秋の収穫、今年のお米の出来は？】

今年の夏は雨がほとんど降らず渇水が心配されましたが、日照時間が多かったことで稲穂の色づきが早く、8月の終わりには稲刈りをする田んぼがありました。9月は台風の接近や秋雨全線が停滞して天候が悪く、収穫がまだの農家は気をもみましたが、その分、お米の出来は上々のようです。



【中小屋地区危険木伐採】

中小屋の民家裏手の竹などの樹木が大きくなり倒木の危険もあるので、9月7日より、6本の広葉樹の伐採作業に着手してもらいました。プロの作業員が高い木に上り、ロープで枝を吊りながらチェーンソーで小切りし、手際よく安全に作業が進められました。一週間ほどで作業は終り、これで一安心です。



【中学校、秋の大運動会】

9月12日、中学校の運動会が開催され、雨続きだった天候もこの日は晴れました。午前中で演技は終わりましたが、大縄飛びや最後のリレーでは生徒達の力強い競技が見れて圧巻でした。成績は、クラス対抗リレーの1位は3年2組、2位2年2組、3位3年1組で、総合優勝は3年2組で得点は300点でした。



○令和8年 10月の行事

- 1日(木) 大杉神社 秋の祭礼
- 5日(月)～ 新温泉町小学校5年生 自然学校
- 9日(金)
- 17日(土) 「資源ゴミ回収」 (8:00～ 浜坂東小学校 PTA)
- 22日(木) 「畑ヶ平林道(県道)滝ハイキング」 (9:00～15:00 上山高原エコミュージアム)
- 24日(土) 「扇ノ山紅葉登山」 (9:00～15:00 上山高原エコミュージアム)



秋の自然体験

10月10日(土) 9:30～14:00

自然とふれあう

さつまいも収穫

鍋釜焼さん

ジビエカレー

場 所 久斗山地区公民館とその周辺

参加費 1人 1,000円

申込期限 9月25日(金)

※県子連安全共済会に未加入の方は、加入が必要です。(年会費1人300円)

主催：久斗山地区公民館 久斗山・嶺地区青推協
新温泉町子ども会育成連絡協議会

お問合せ：新温泉町浜坂公民館 日浦 ☎ 82-4339

トリノフンダマシ ♀

夜間、網にかかった大物の獲物を捕らえた。

四季の久斗山生物だより
トリノフンダマシ (クモ類)

クモの一番の天敵は鳥ですが、いかなる悪食の鳥と言えども、自分の糞は食べない。そう思っている姿を鳥の糞に似せたわけでは無いでしょうが、昼間、葉裏などでじっとしている姿はまさに鳥の糞です。夜行性で、夜中に目の粗い水平円網を張り、蛾などを捕らえます。

秋の文化祭で、生物部の目玉は、共同研究のイトヨ(この年、地元新聞にも取上げられ、記事が地方版に掲載された)の稚魚が泳ぐ大きな水槽でしたが、他にも犬の剥製や骨格標本の展示もありました。クモも勿論、昆虫の標本には見劣りしますが、アルコールで満たしたガラス瓶に綿を入れ、八本の脚を広げたオニグモなどの大型の種類の標本を生体写真を添えて展示しました。しかし、クモのコーナーの主役はやはり珍種のムツトゲイセキグモです。八木沼博士の手紙も台紙に貼って展示しましたが、何人が気がついたでしょう。

生物部は、冬の野外活動は雪が積ってできませんが、一年間の活動をまとめた部報作りがあります。その内容は山や海の合宿の紀行文や共同研究の成果、部員個人の研究報告などを掲載します。それぞれが原稿を執筆し、ガリ版の原紙に鉄筆で清書し、その当時、事務室に入ったばかりの自動の謄写版で二頁ごと印刷して、刷りあがった紙を二つ折りにして、順番に並べ、一部ずつ集めて端に穴を二つ開けて紐で綴じて出来上がりです。

表紙のタイトルは「The biological world(直訳すると生物の世界)」という、壮大なものでした(次の年に変更)。浜坂高校生物の一年間の活動成果は、その年に世話になった方や、同じ但馬の豊岡高校生物部へも郵送し、あちらの部報が交換に送られてきました。

四月。運動部などは三年生は部活に出なくなりませんが、進級しても、相変わらず放課後には生物部に顔を出していました(つづく)